
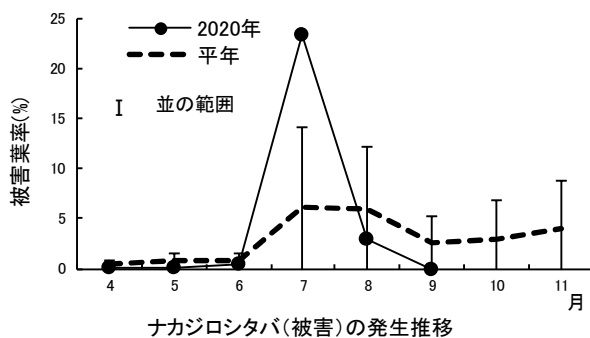
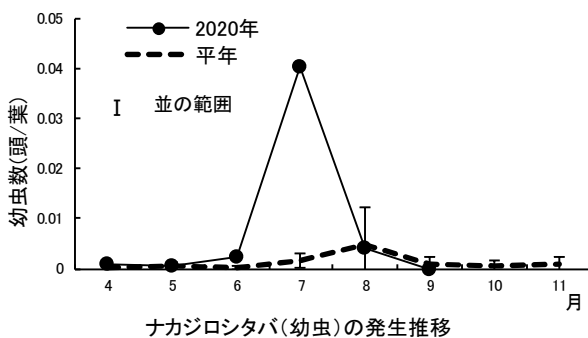


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	

予報の根拠


平年の発生量の推移 (→)

調査結果

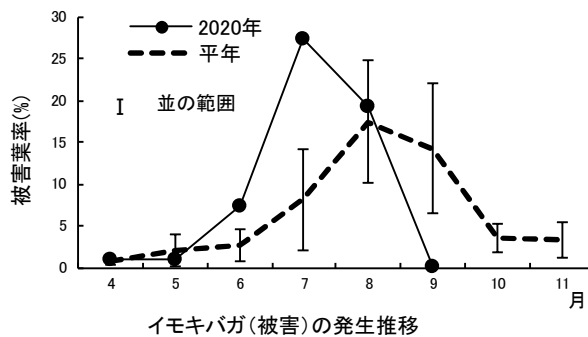
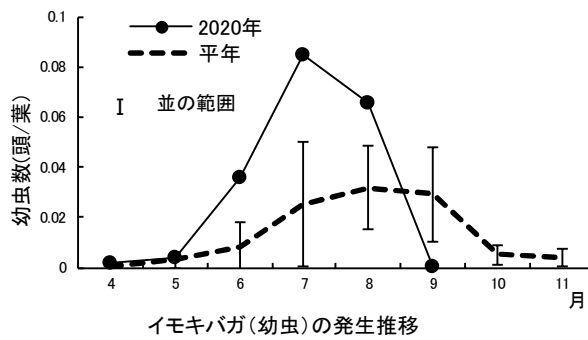


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

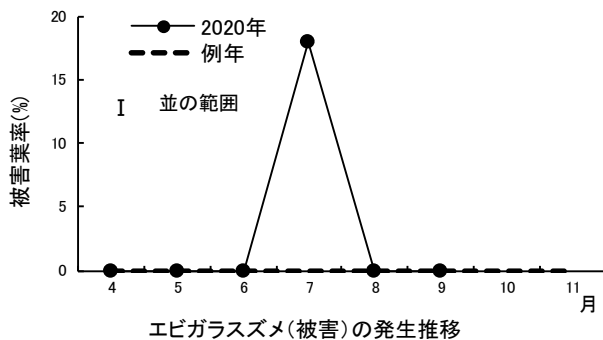
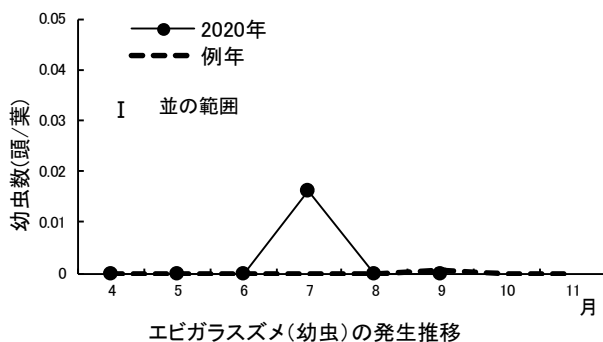


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	エビガラスズメ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	—	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果



防除のポイント

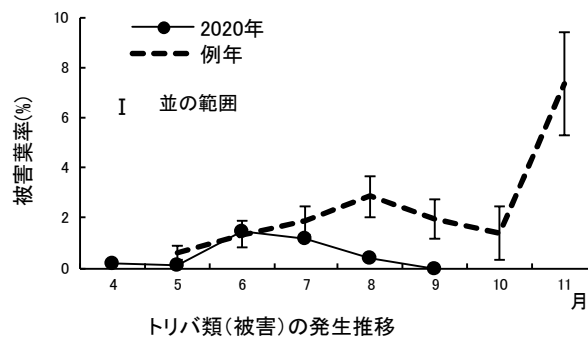
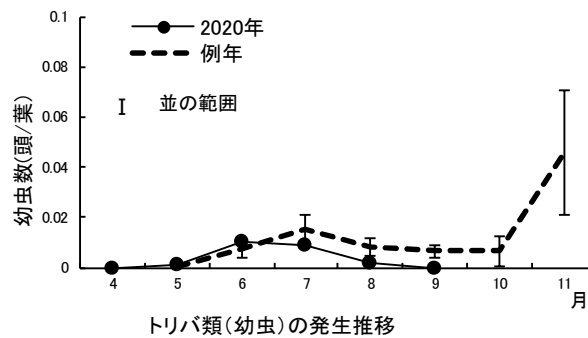
- ・ 若齢幼虫の早期発見に努め、薬剤防除を行う。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	—	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)		




予報の根拠

調査結果

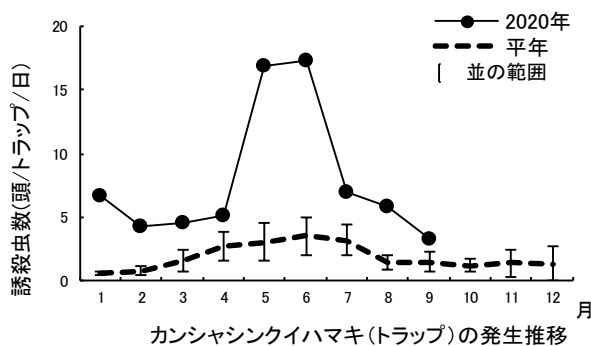
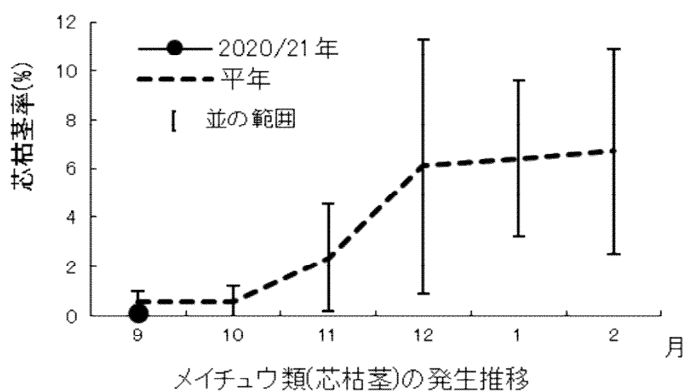


防除のポイント

発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
		10 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



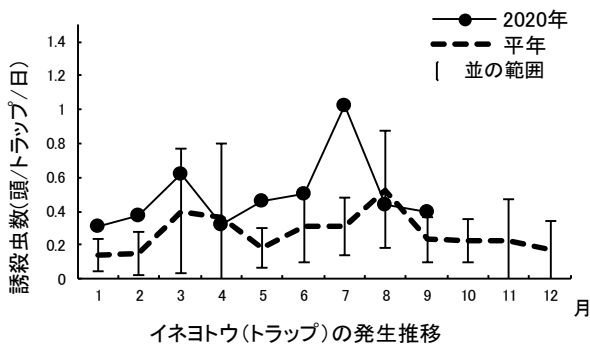
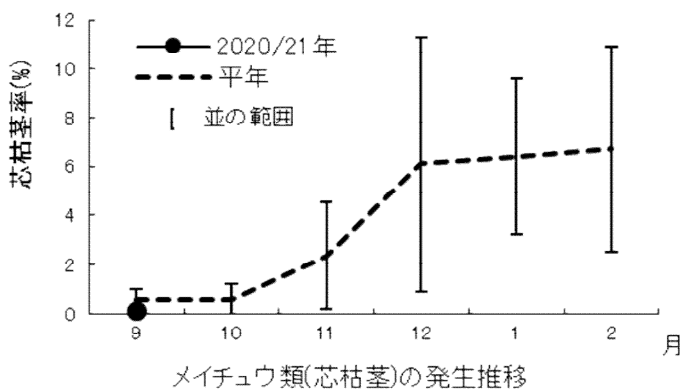
- ・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の100%(1/1頭)がカンシャシクイハマキであった。

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
		10 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



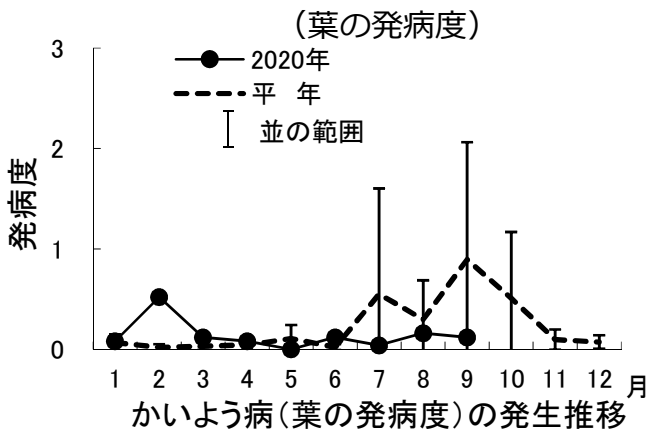
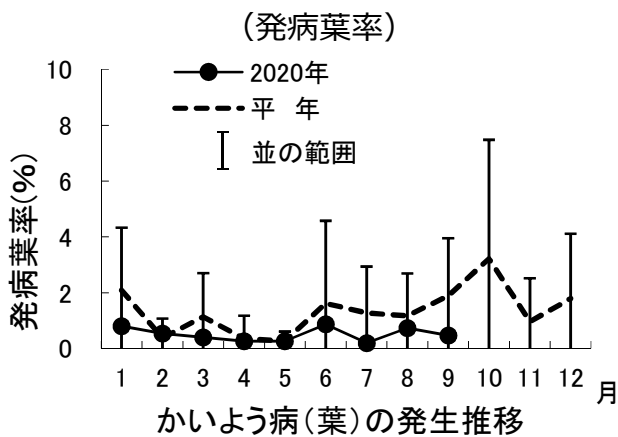
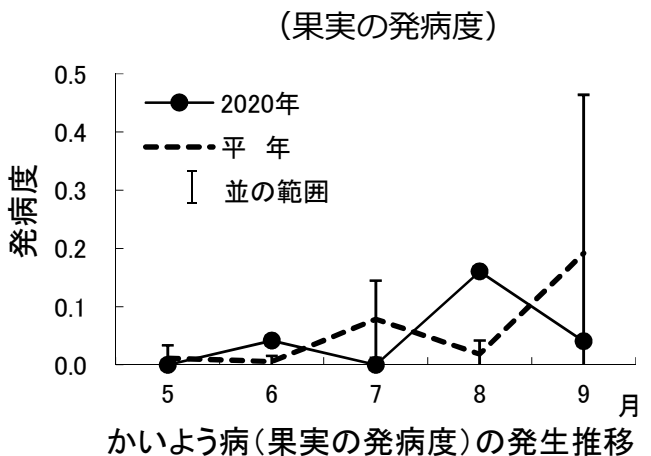
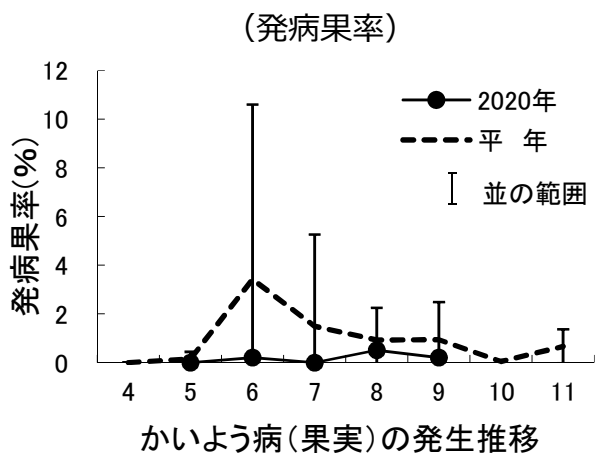
- ・ 沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の0% (0/1頭) イネヨトウであった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

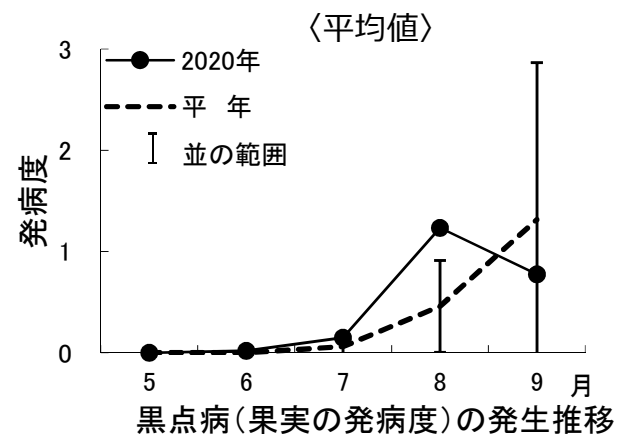
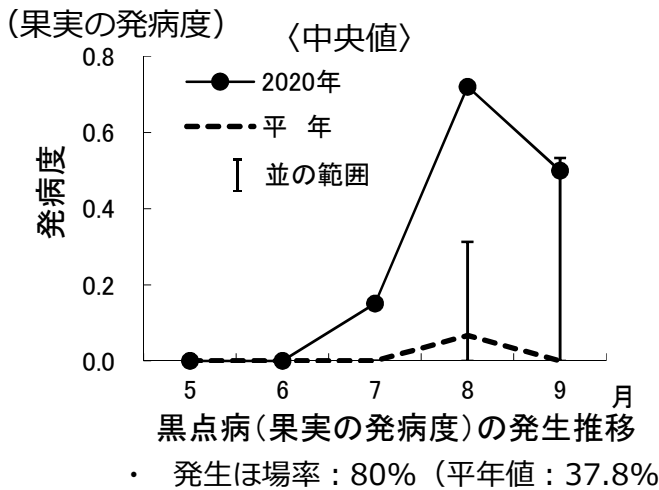
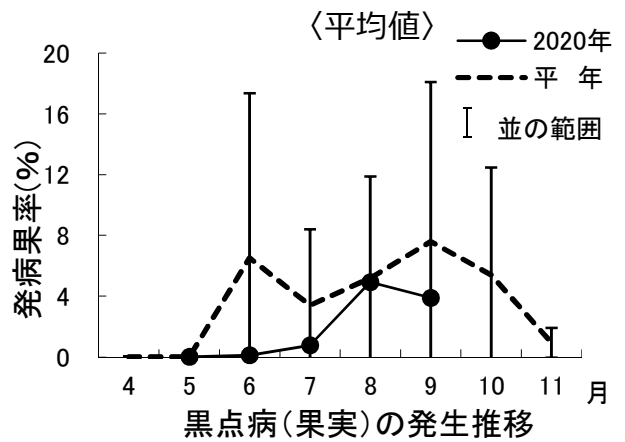
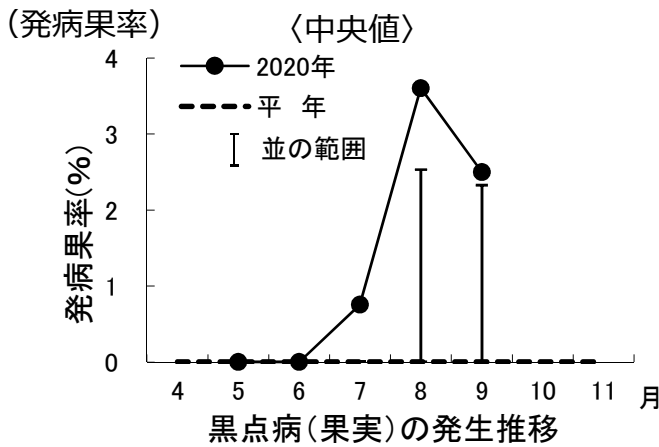


防除のポイント

- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	↓	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	


調査結果



防除のポイント

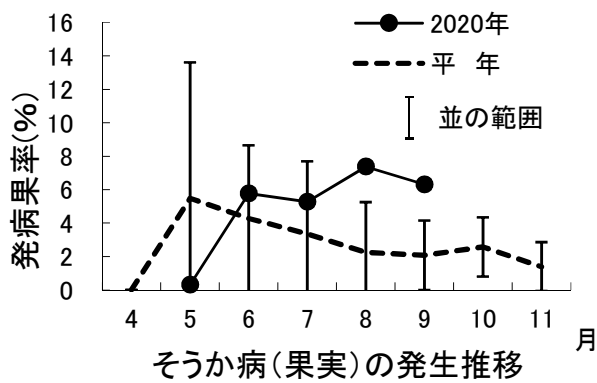
- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。



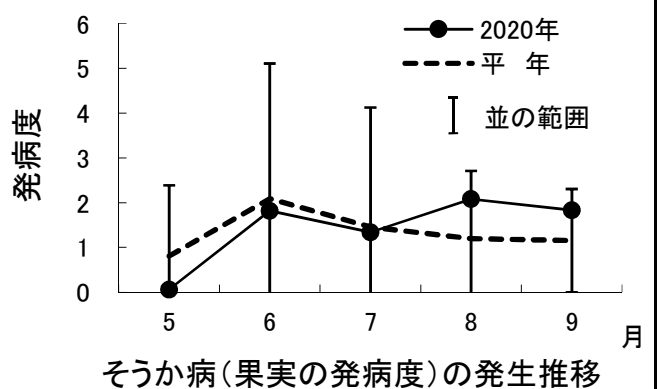
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

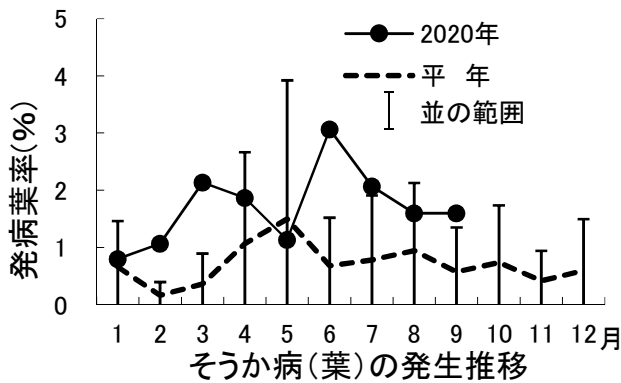
(発病果率)



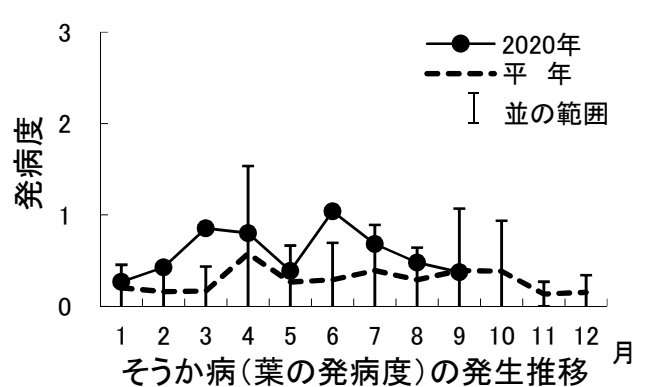
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)




防除のポイント

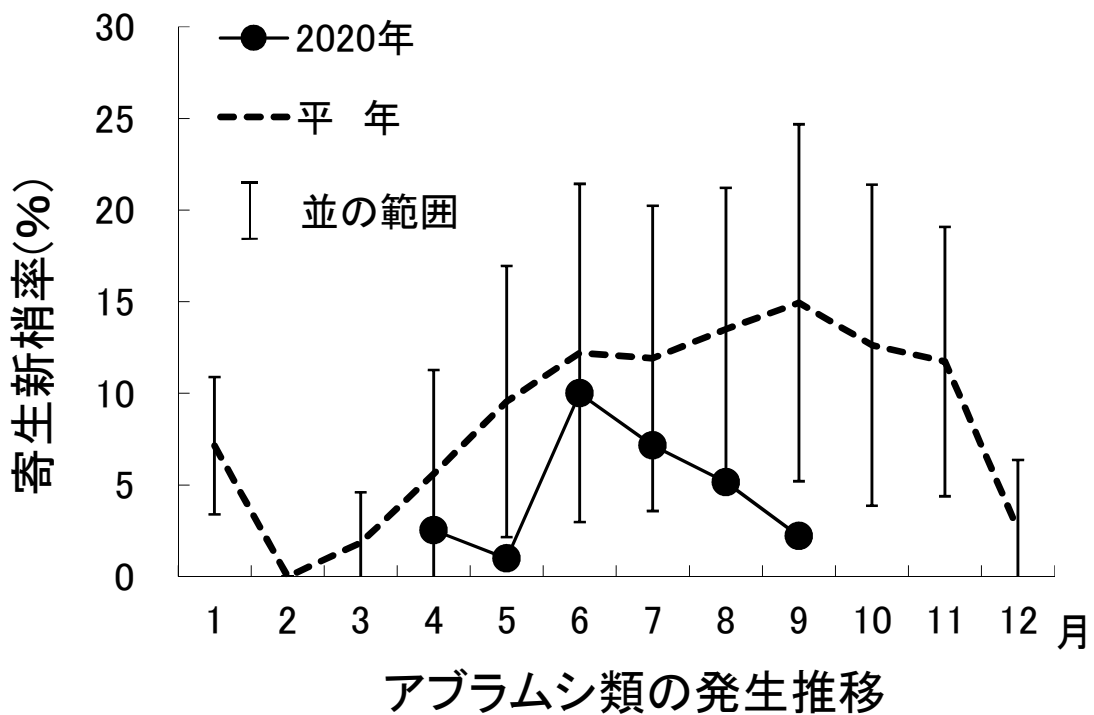
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや少	
予報	9 月からの増減傾向	↓	
	10 月の発生量（平年比）	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果




・ 発生ほ場率：33.3%（平年値：71.4%）

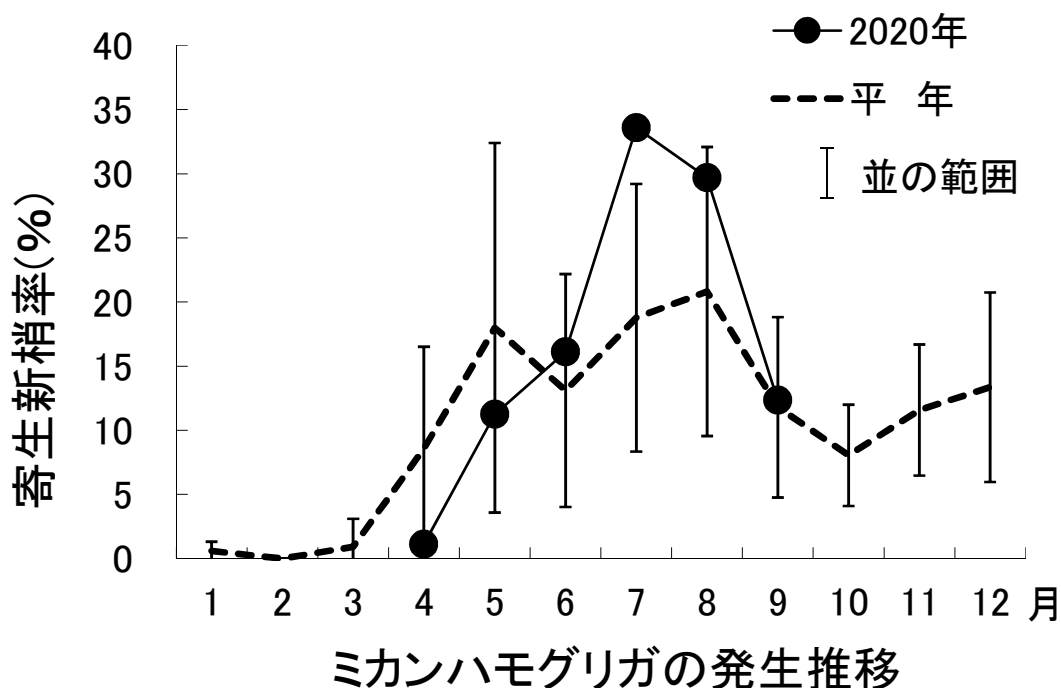
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	


調査結果



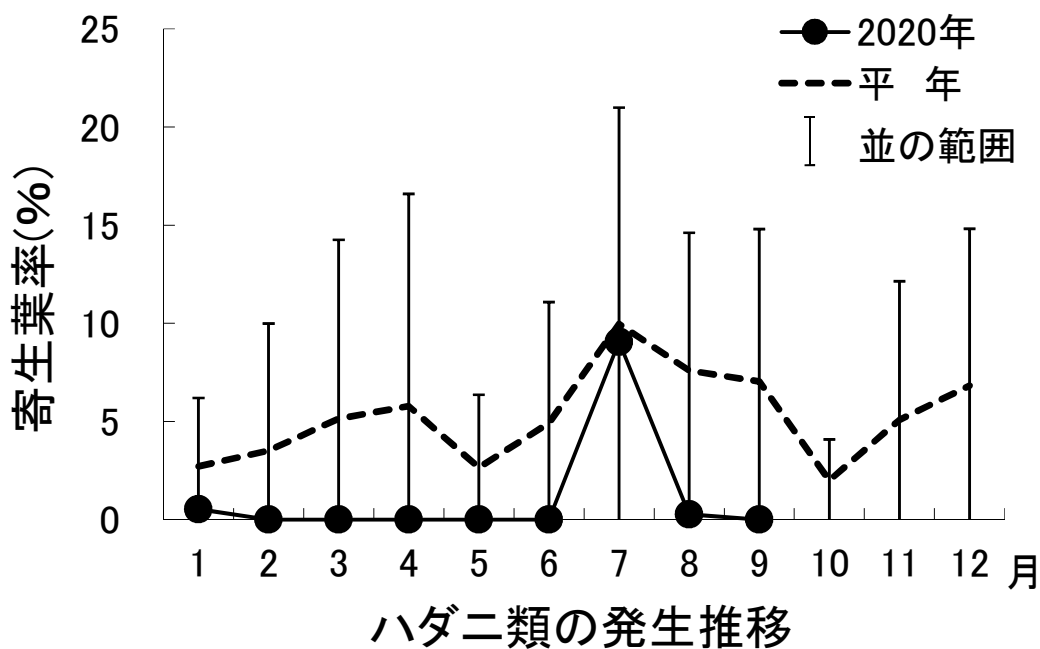
・ 発生ほ場率：66.7%（平年値：78.4%）

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		今後 1 か月の気温が平年より高い見込み		

調査結果



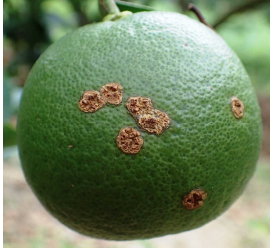
・ 発生ほ場率：0%（平年値：36.4%）

防除のポイント

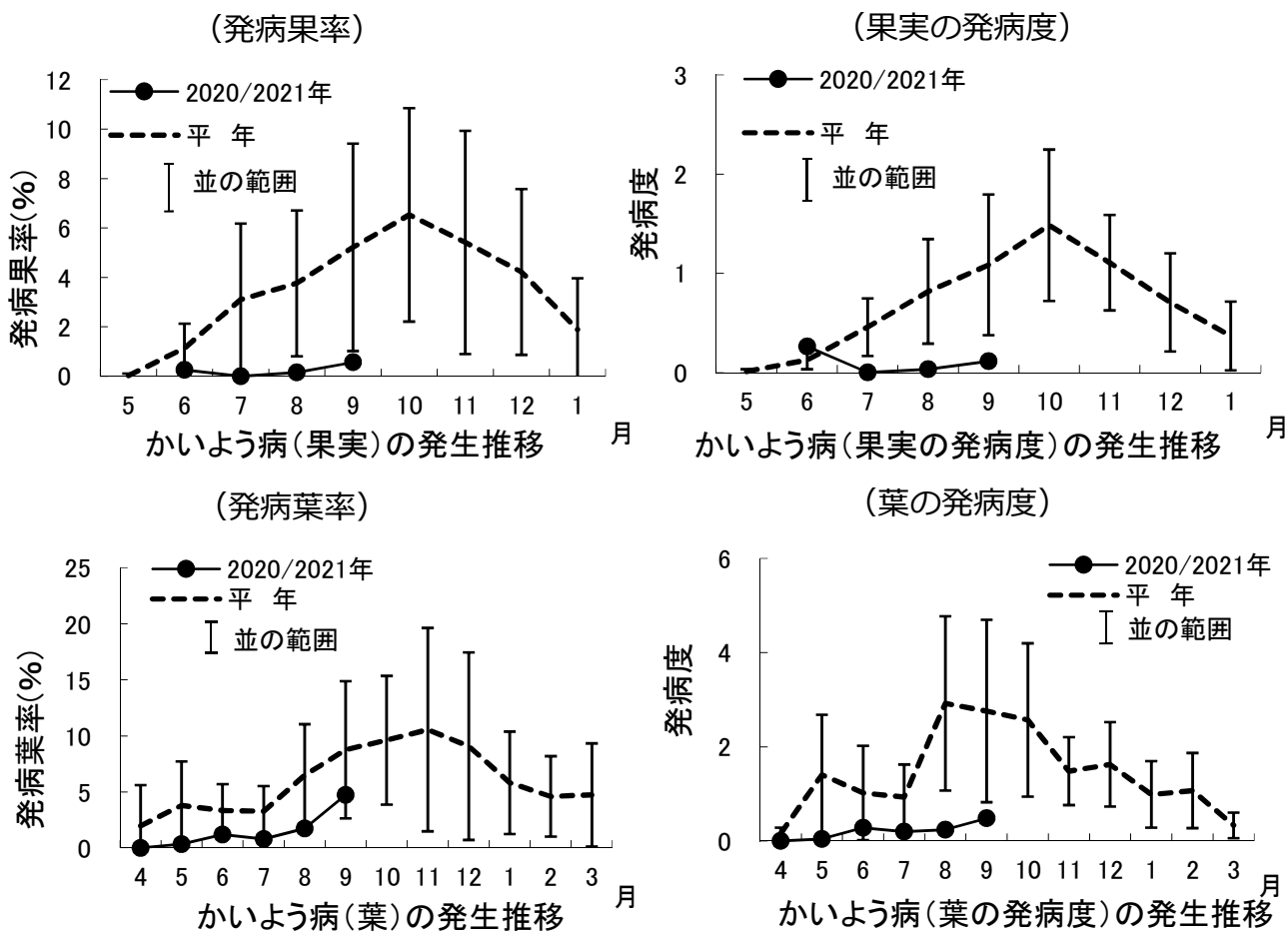
・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




防除のポイント

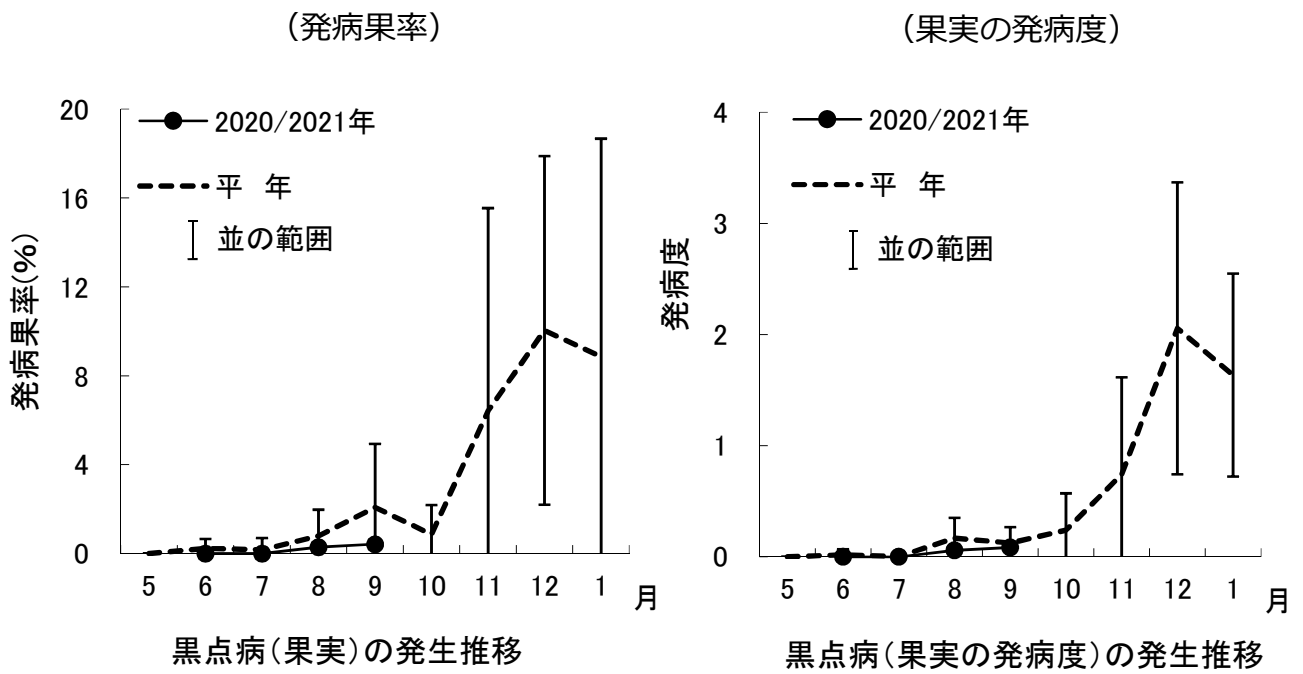
- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	


調査結果



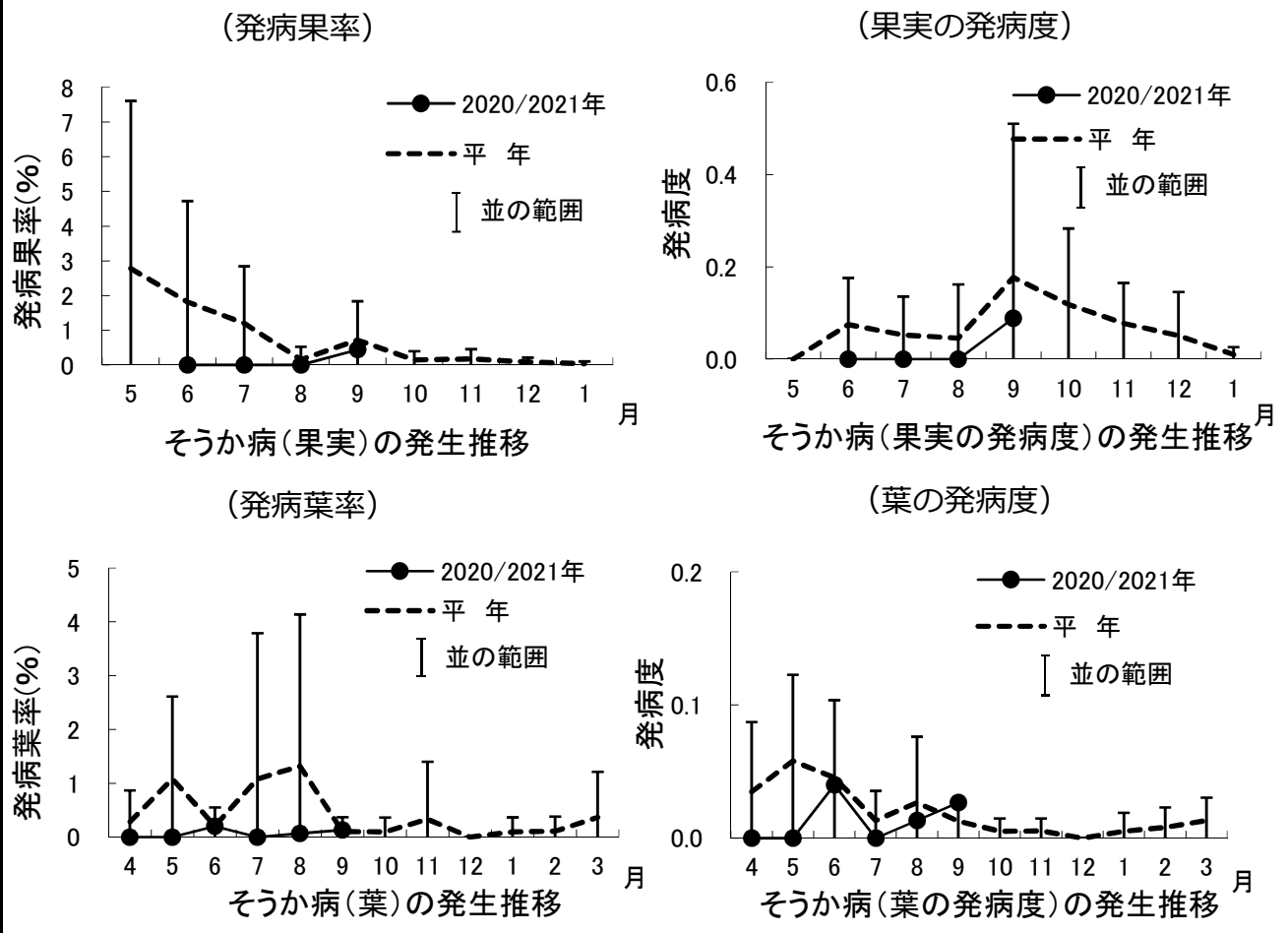
- ・ 発生ほ場率：40%（平年値：34.9%）

防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↓	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果




防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

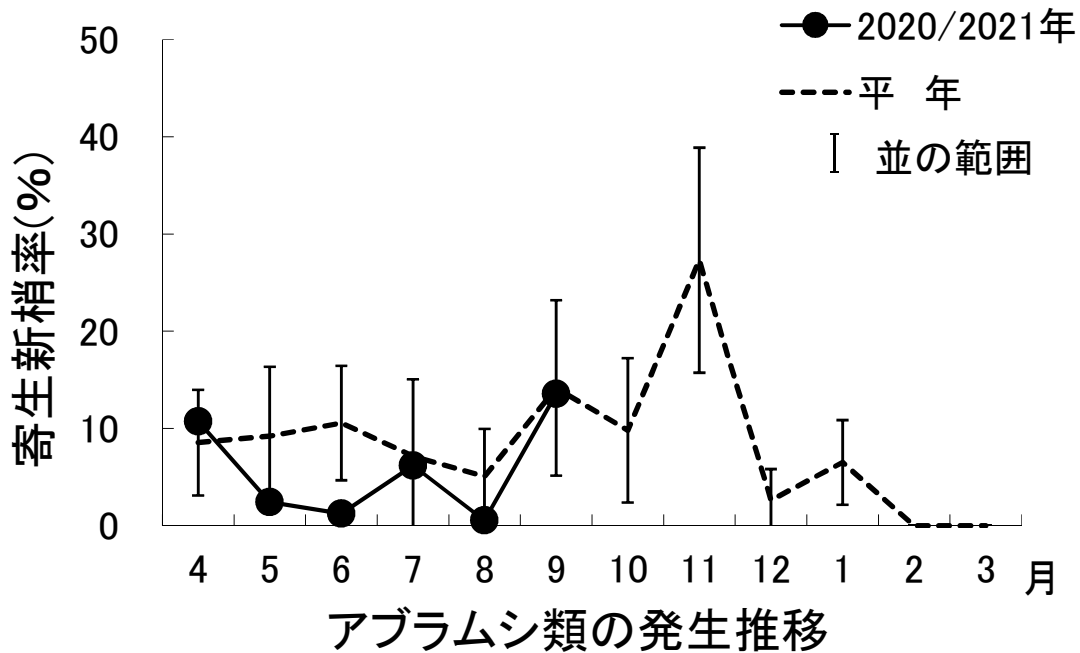
被害葉→





作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果



・ 発生ほ場率：75%（平年値：64.3%）

防除のポイント

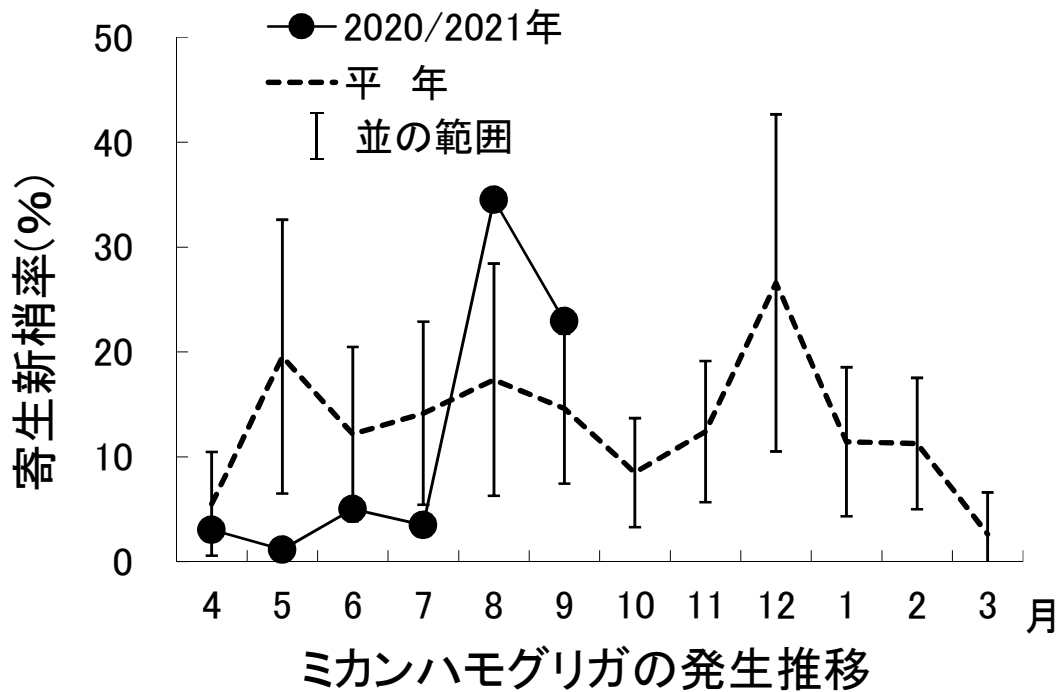
- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。





作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	


調査結果



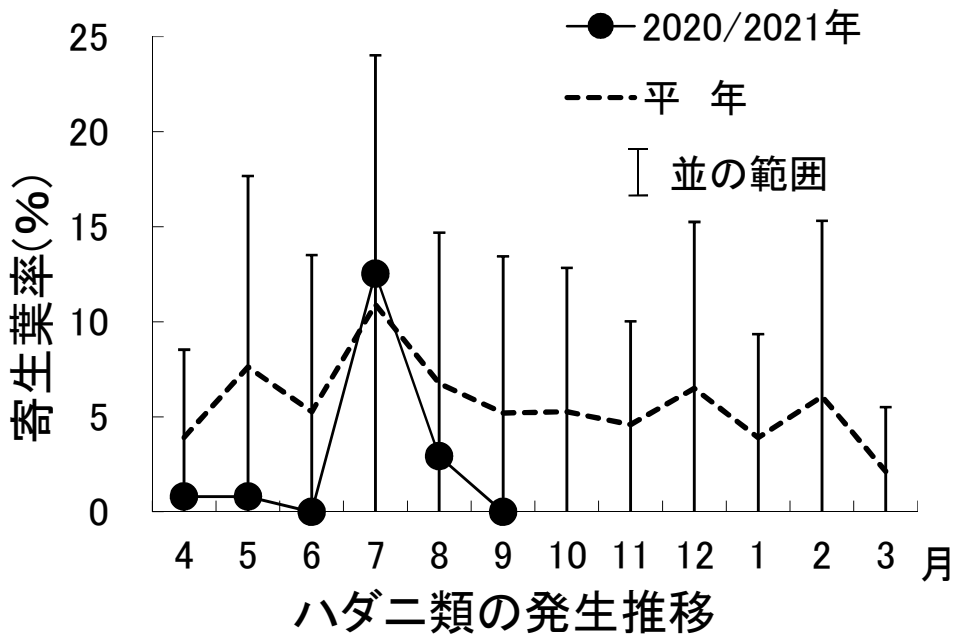
- ・ 一部ほ場で多発した
- ・ 発生ほ場率：75%（平年値：90.6%）

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類			
調査結果	9 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	→		
	10 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果




・ 発生ほ場率：0%（平年値：25.6%）

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



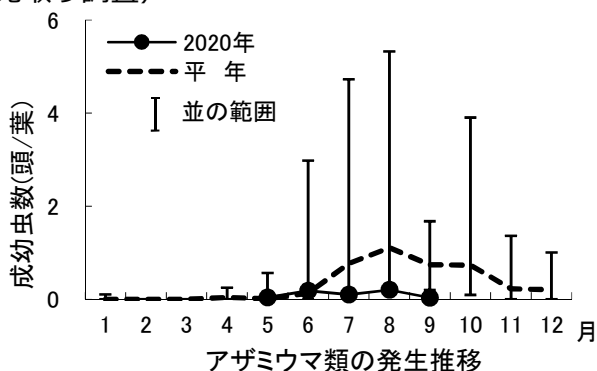
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		新梢の発生量が増加するため	

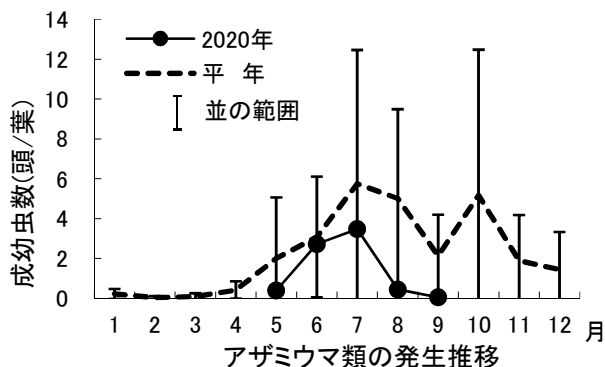
調査結果

(見取り調査)

〈中央値〉

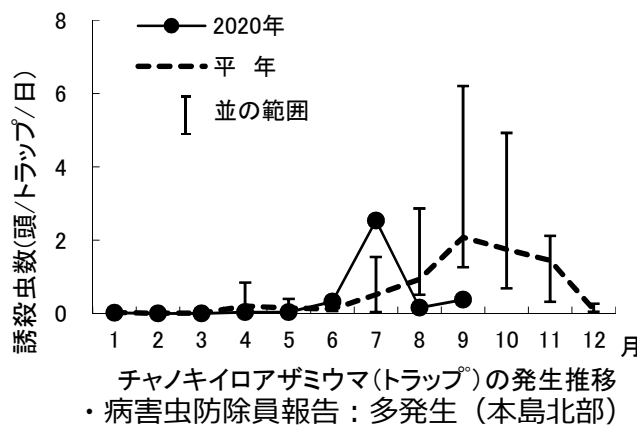


〈平均値〉

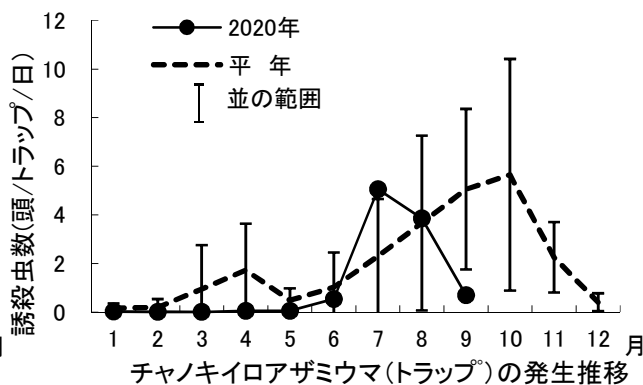


(トラップ調査)

〈中央値〉



〈平均値〉




・病害虫防除員報告：多発生（本島北部）

防除のポイント

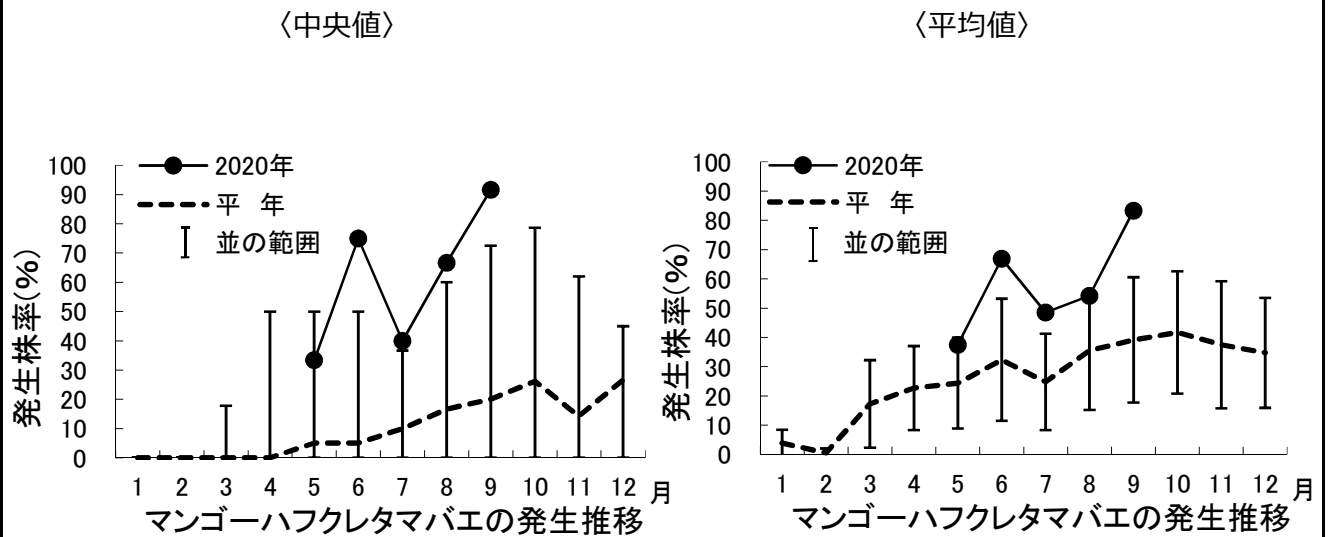
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		新梢の発生量が増加するため	


調査結果



- ・ 被害新梢率：41.4% (平年値：27.4%)
- ・ 発生施設率：100% (平年値：58.8%)

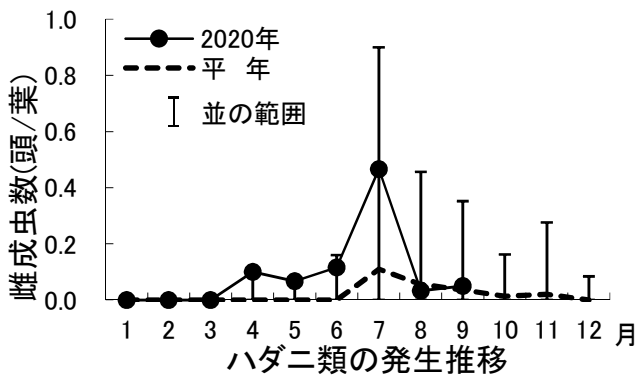
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

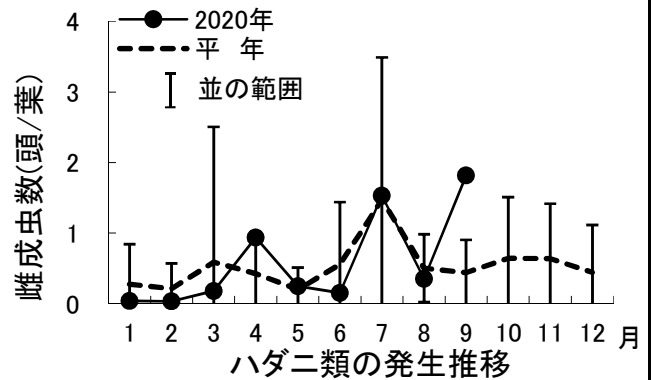
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

〈中央値〉



〈平均値〉




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：50% (平年値：62.9%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：0.1頭以下/葉 (発生種：シュレイツメハダニ)

防除のポイント

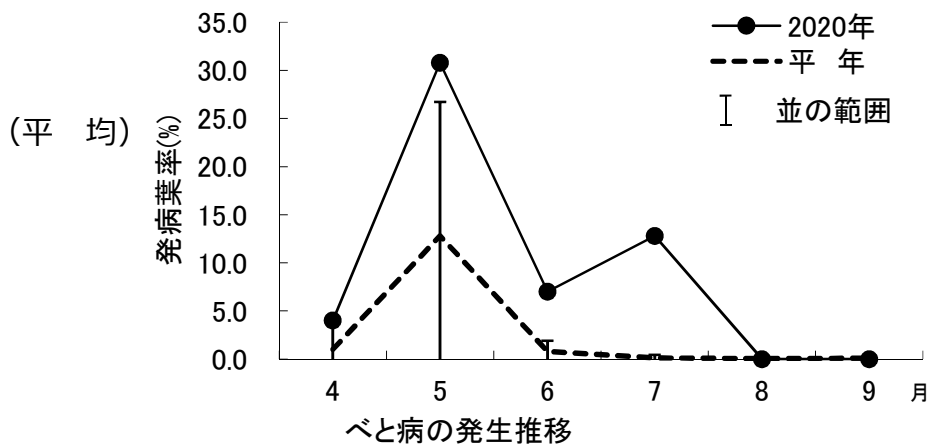
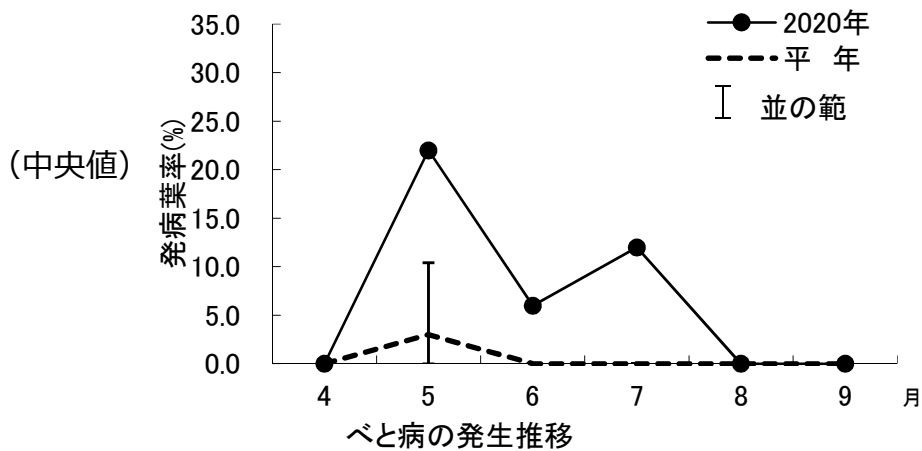
- ・ 晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	ヘチマ		地域	沖縄群島
病害虫名	べと病			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	—		
	10 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果



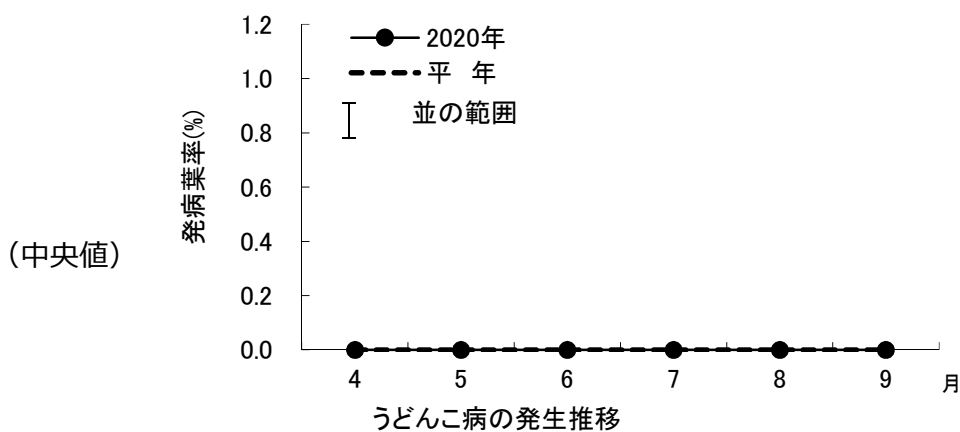
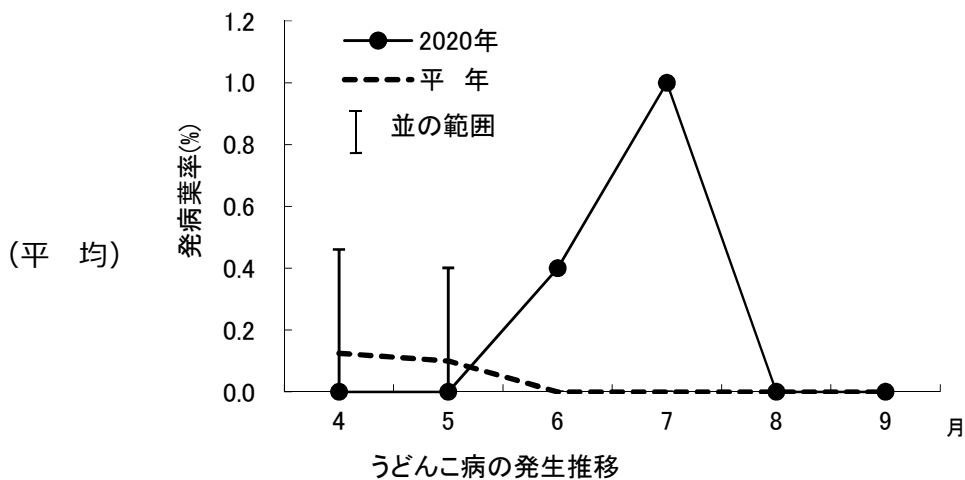
防除のポイント

- ・ 気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 適正な施肥管理を行う。



作物	ヘチマ		地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	—		
	10 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				


調査結果



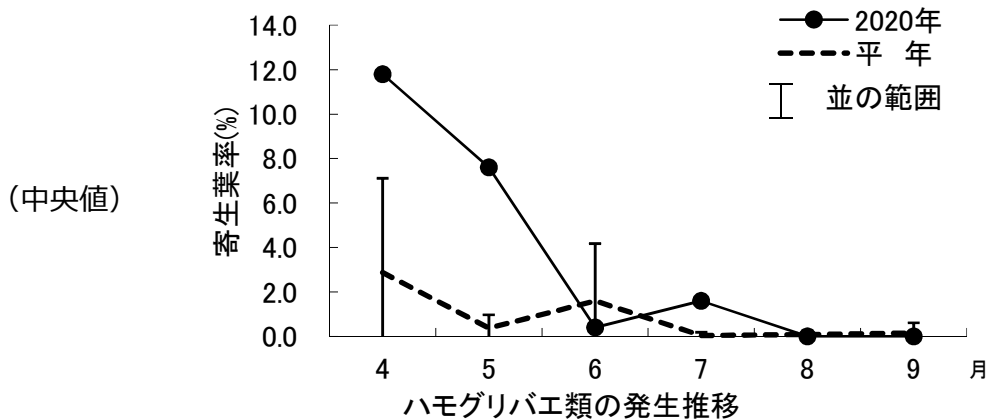
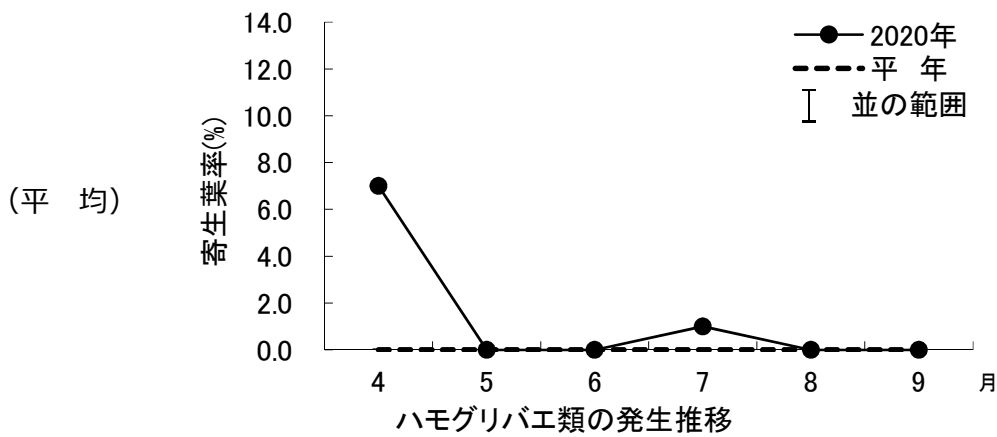
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。



作物	ヘチマ		地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	—		
	10 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				


調査結果



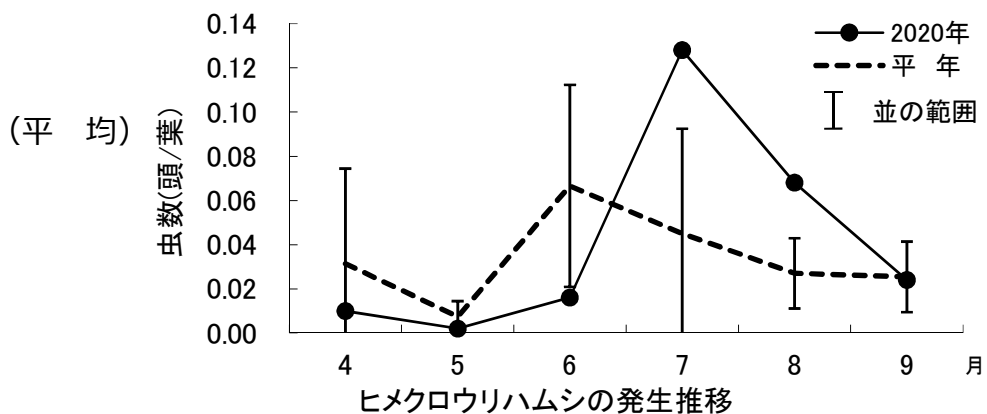
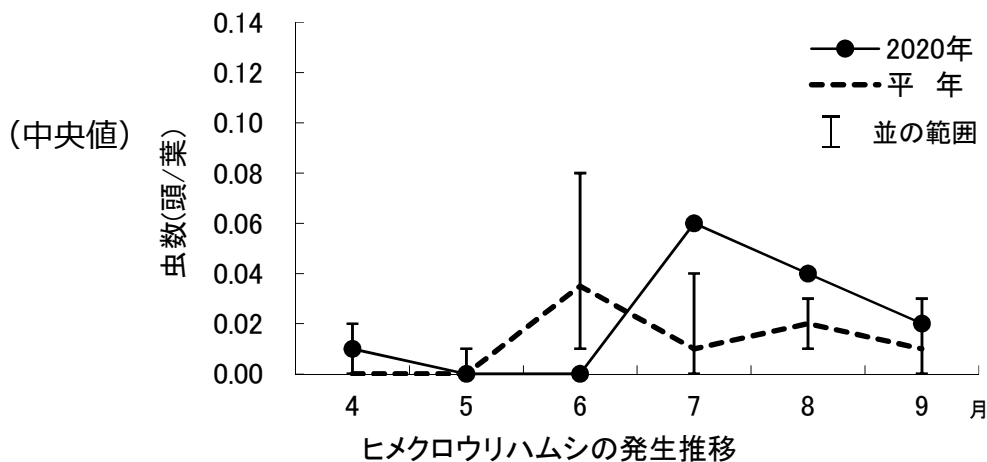
防除のポイント

- ・ 本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。



作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ヒメクロウリハムシ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			


調査結果



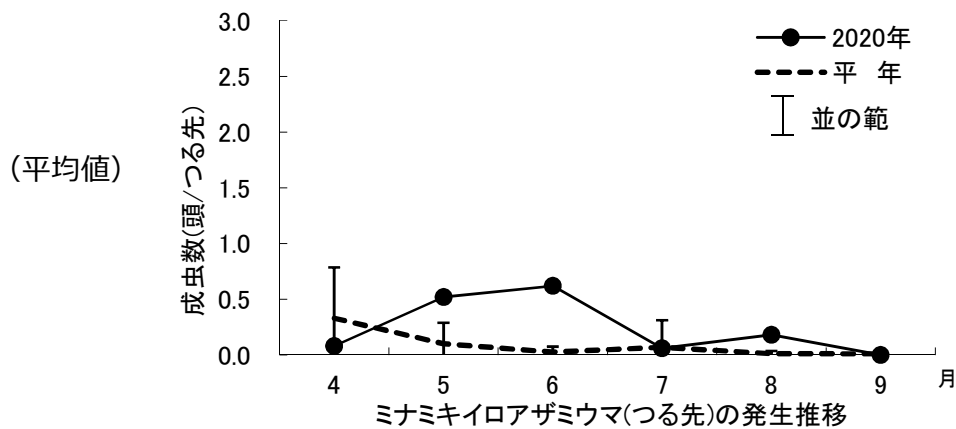
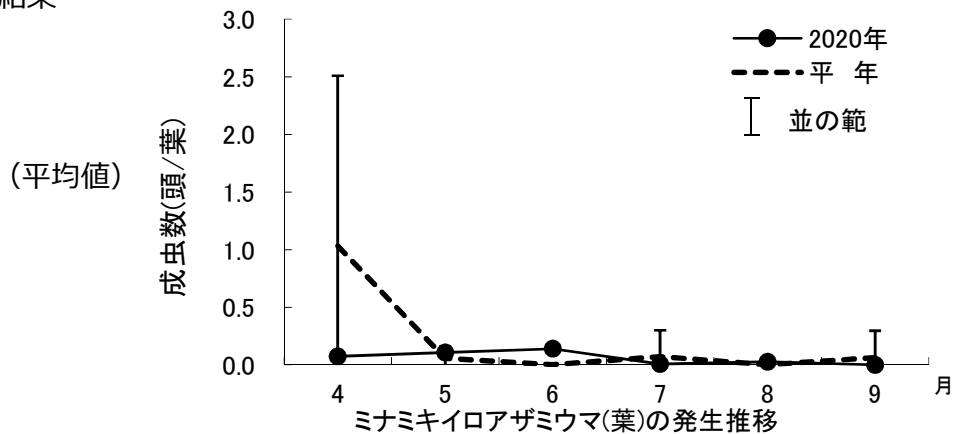
・発生ほ場率：100% (平年値：68%)

防除のポイント

- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。


作物	ヘチマ		地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	-		
	10 月の発生量 (平年比)	-		
予報の根拠				

調査結果

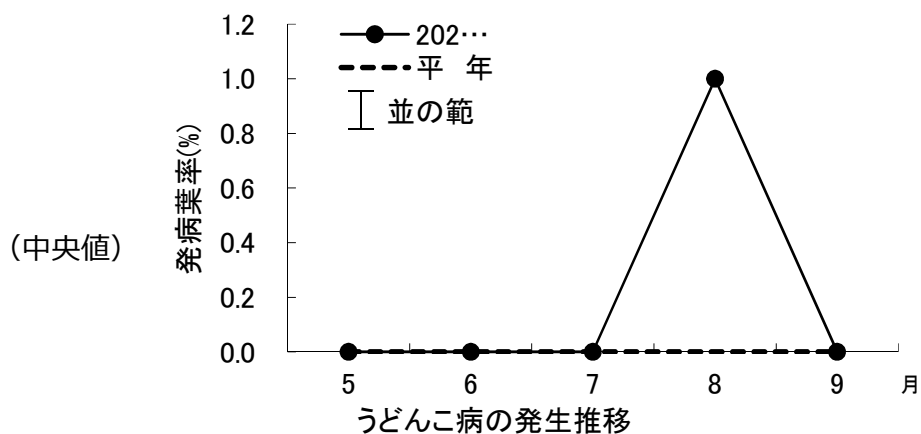
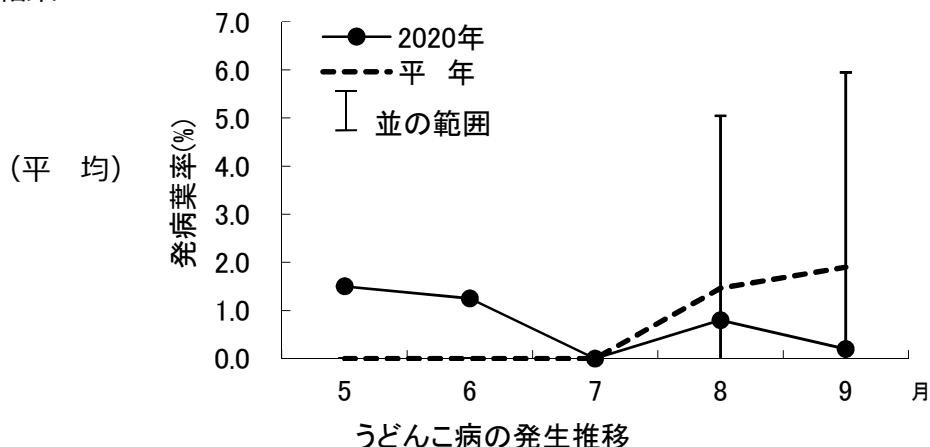


防除のポイント

- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・ 多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			


調査結果



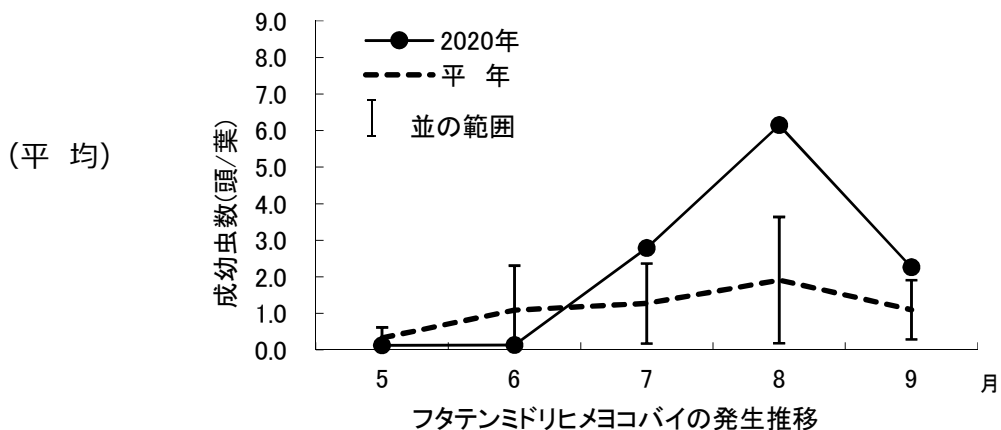
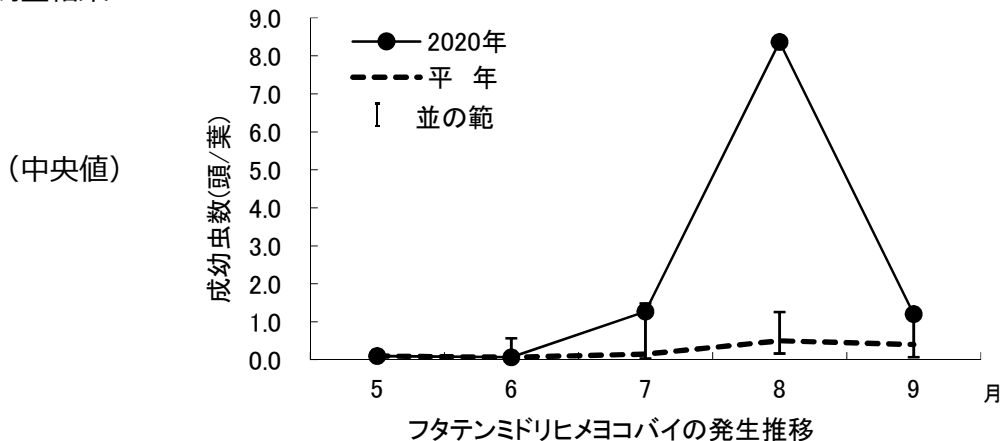
・発生ほ場率：20% (平年値：24.4%)

防除のポイント

- ・下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			


調査結果



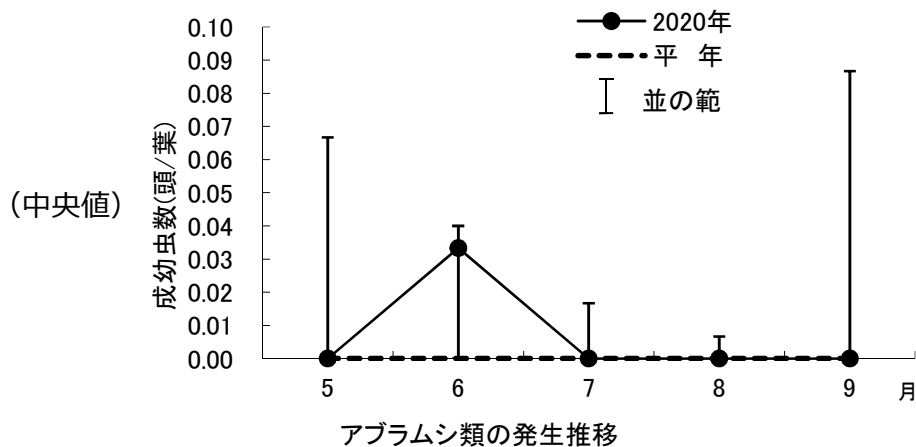
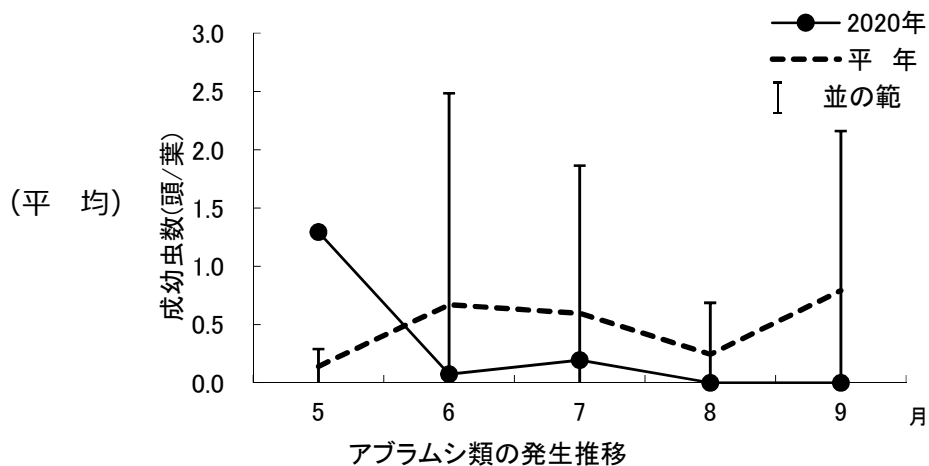
・発生ほ場率：100% (平年値：80%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。


作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

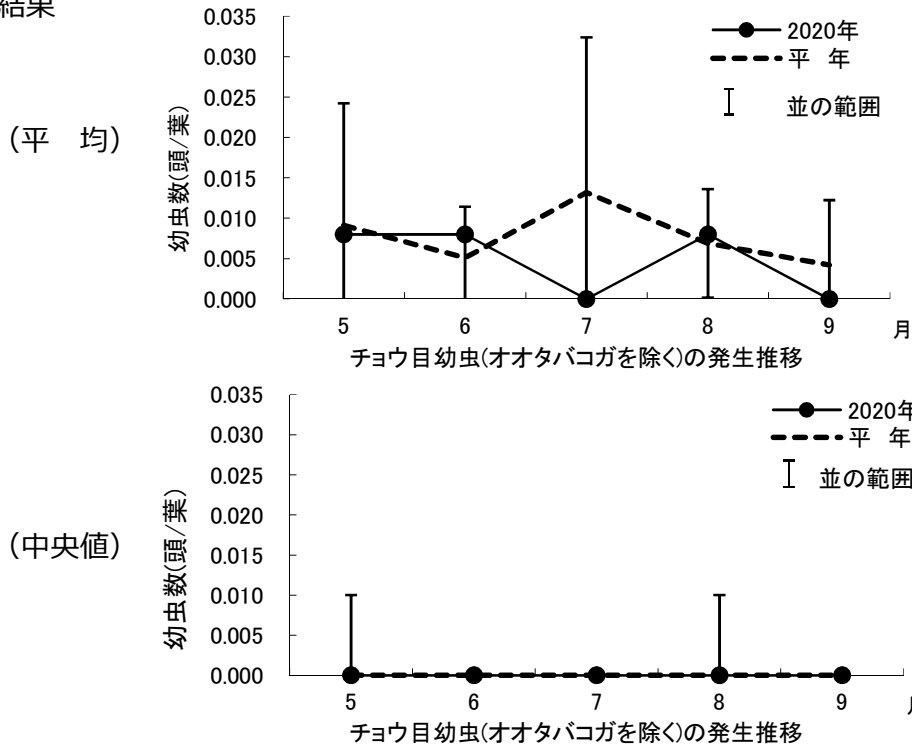


防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫(オオタバコガ除く)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			


調査結果



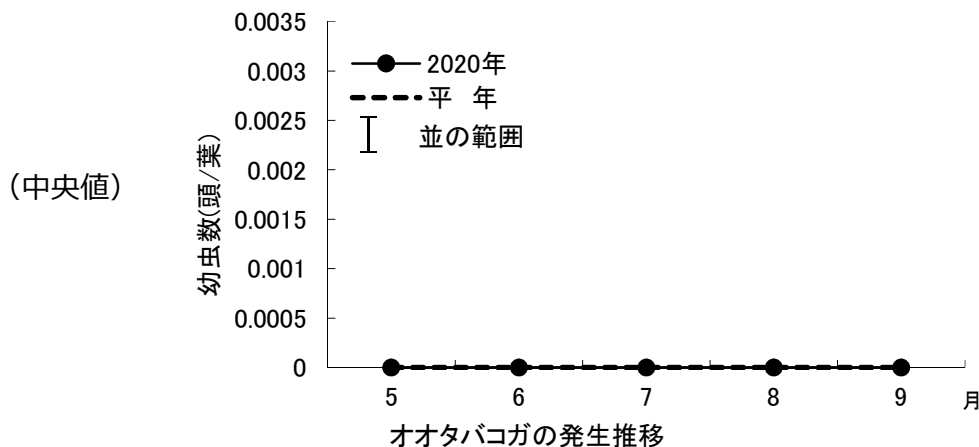
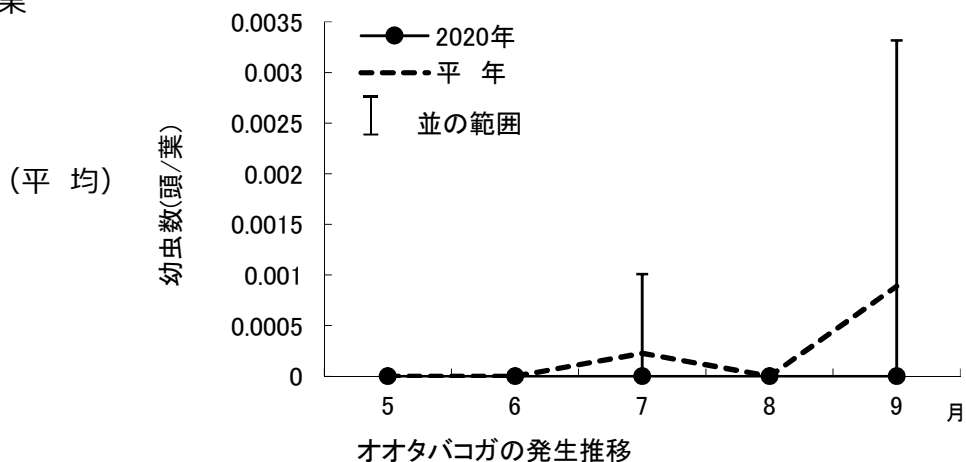
防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。




作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	オオタバコガ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

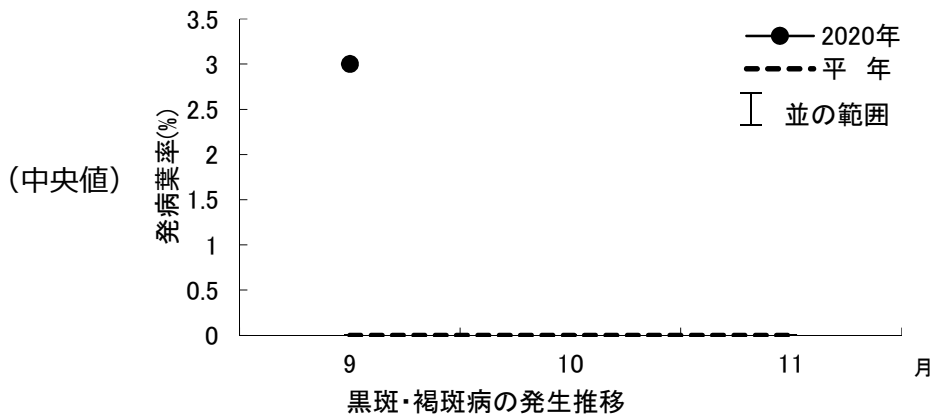
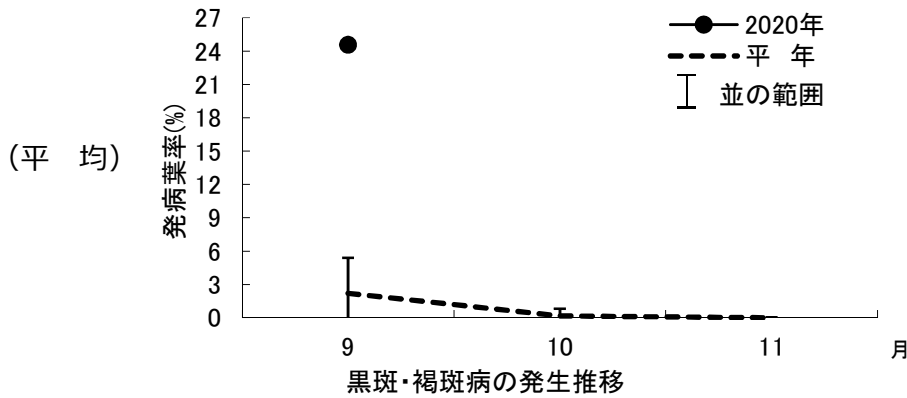


防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。
- ・被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	多	
予報	9 月からの増減傾向	↓	
	10 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果




- ・発生ほ場率：80%（平年値：22.3%）
- ・病害虫防除員報告：多発生（北部地区）

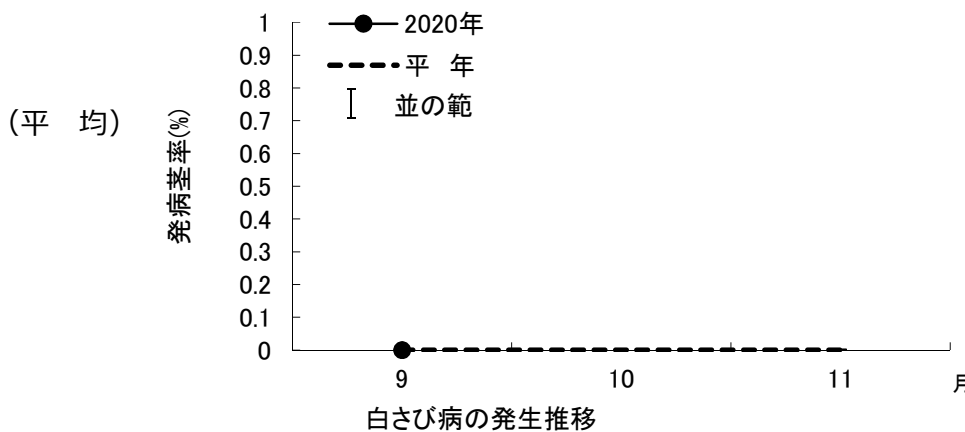
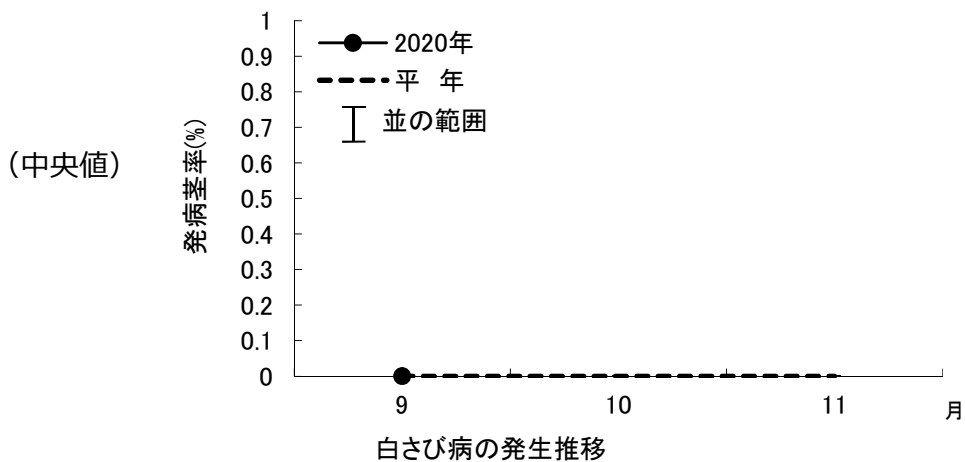
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。
- ・発生が多い場合は薬剤散布により防除を徹底する。




作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島	
病害虫名	白さび病				
調査結果	9 月の発生量（平年比）	(発生なし)並			
予報	9 月からの増減傾向	→			
	10 月の発生量（平年比）	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)			

調査結果

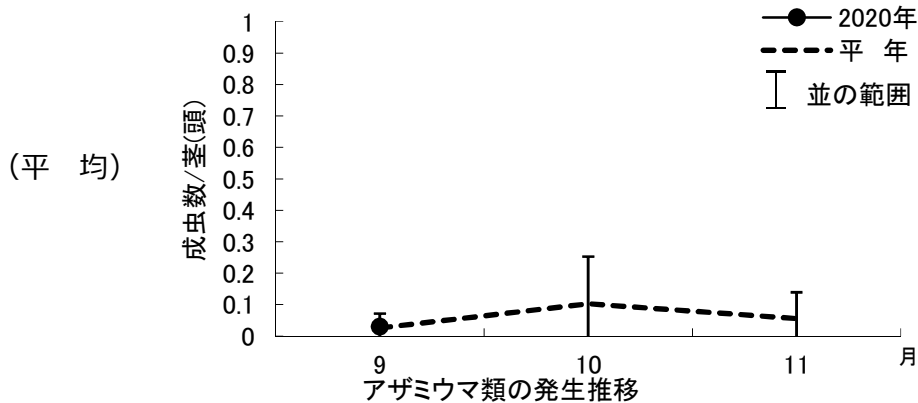
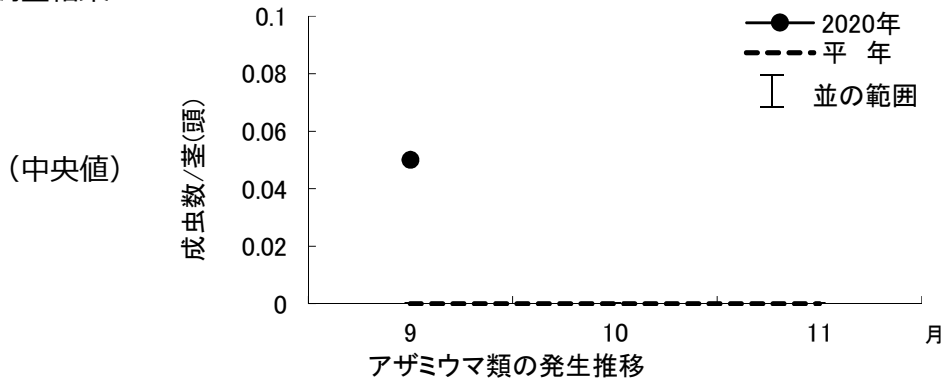


防除のポイント

- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	多	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



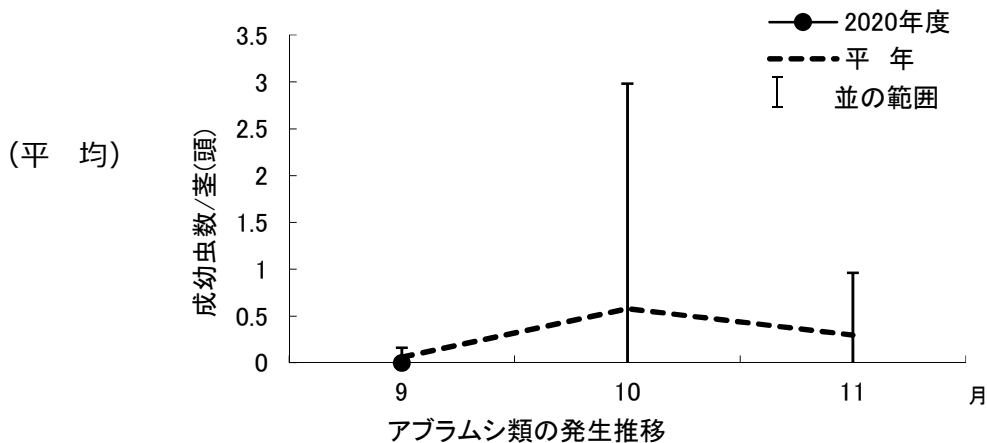
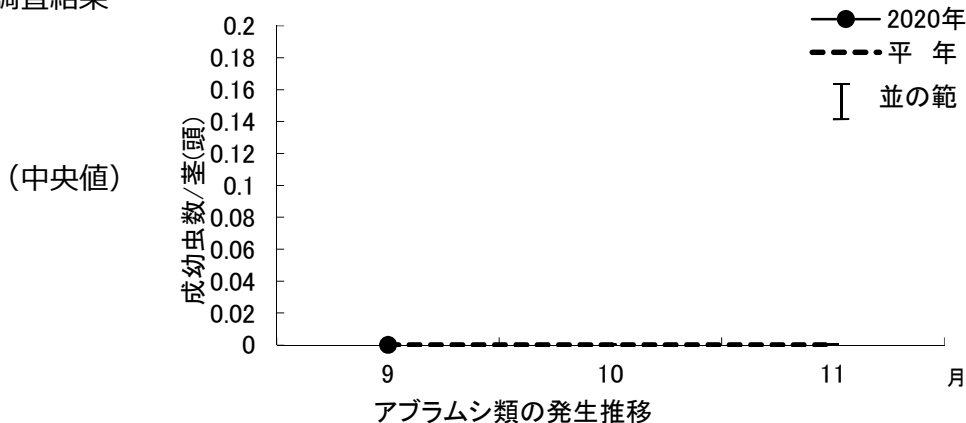
- ・発生ほ場率：60% (平年値：22.3%)
- ・病害虫防除員報告：多発生 (北部地区)

防除のポイント

- ・苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、苗床での防除を徹底する。
- ・定植時に粒剤を施用する。
- ・採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後、すみやかに片付ける。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク (年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		


調査結果



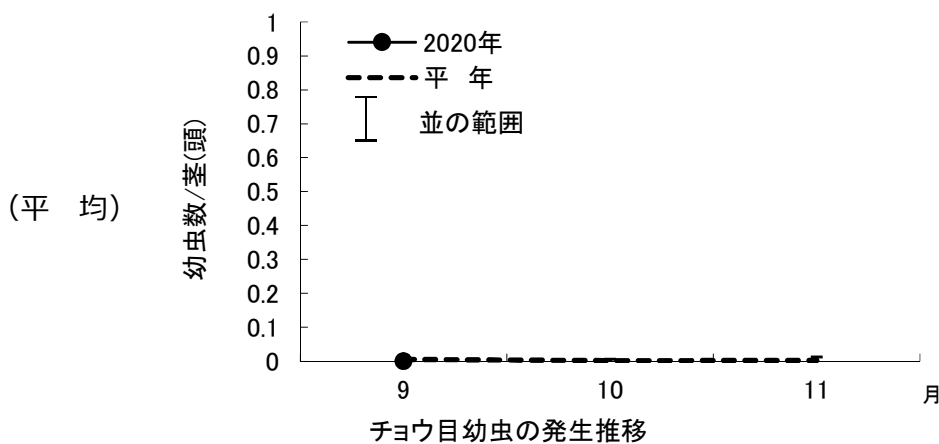
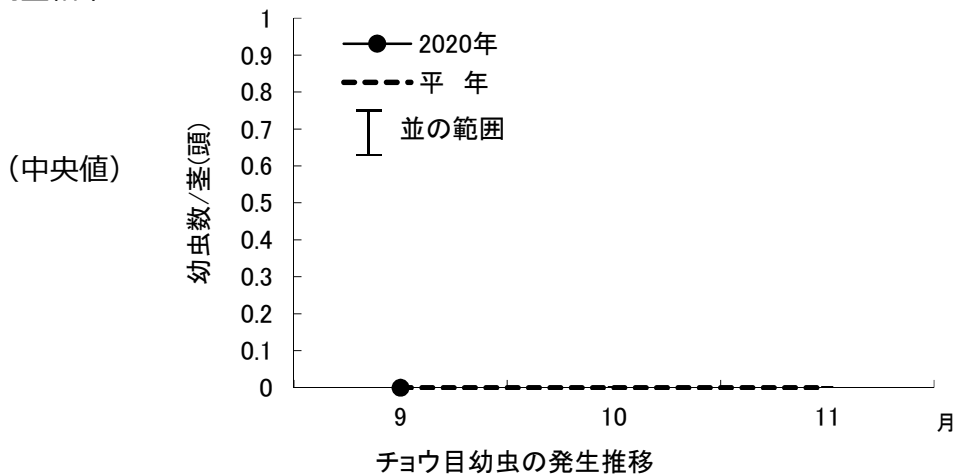
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。




作物	小ギク (年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	9 月からの増減傾向	→		
	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

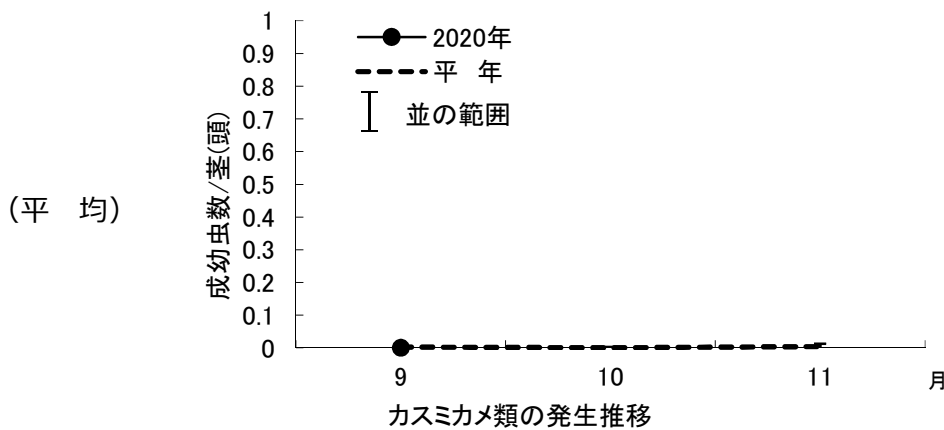
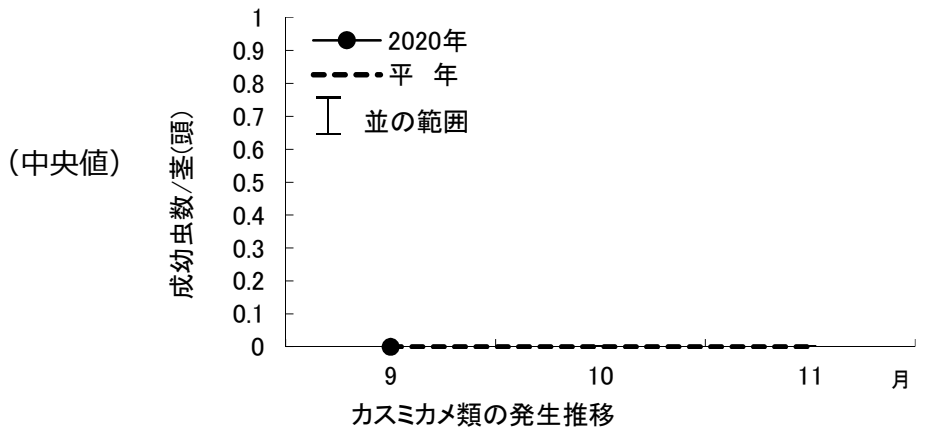


防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



防除のポイント

- ・電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- ・周囲のほ場に収穫残りの花があると発生源になる場合があるので除去する。